

第2回 ECE WG 会合議事録

日時：9月19日（水） 17:00～19:15

場所：日本工学会事務所

出席者（順不同、敬称略）：

主査 川島一彦（東京工業大学大学院 教授）
委員 清宮 理（早稲田大学工学部 教授、土木分野）
高草木 明（東洋大学工学部建築学科 教授、建築分野）
田口裕也（日本機械学会 能力開発促進機構長、機械分野）
中崎良成（NEC ラーニング 執行役員フェロー、基礎分野）
持田侑宏（フランステレコム CTO、電気分野）
事務局 柳川隆之

配布資料：

ECE07-2-1 第1回 ECE WG 議事録（案）
ECE07-2-2 ECE に関するメモ（高草木委員）
ECE07-2-3 ECE に関する一提案（持田委員）
ECE07-2-4 日本機械学会が実施した講演会・講習会（抜粋）（田口委員）
ECE07-2-5 ECE の可能性と分類（川島主査）
ECE07-2-6 土木学会の継続教育制度と継続的な講習会（清宮委員）
ECE07-2-7 ECE WG 参考資料：IT 企業関連研修（中崎委員）
ECE07-2-8 ECE07-1-5 に対するコメント（中崎委員）

議 事：

1. 前回議事録確認

9月3日に開催された第1回 ECE WG 会合の議事録案が事務局から説明され、一部の発言（第3ページ下から3番目）を削除した上で、原案通り確認した。ただし、修正箇所があれば今後も受け付けることにした。また、川島主査から、議事録は、将来、議論の繰り返しを避けるために、議論の内容を記録しておくが、発言を逐一記録するのではなく、発言の主旨がうまく伝わるように作成してほしいとの指示があった。

高草木委員から、空気調和・衛生工学会では、企業の社内研修の教材を集め、これを認定していることが紹介された。企業は自主的に教材を提出してくれ、学会の評価委員会がこれを認定し、受講者は受講ポイントに計上できるようになっているとのことである。ただ、企業がポイントをどう評価するかは不明である。川島主査と持田委員から、こうした教材の収集活動を通じて共通のものが出てくるとよいとの発言があった。

2. ECE のイメージ固めのための自由討議

前回の申し合わせに従って、6名の委員から ECE のイメージをまとめた報告書が提出された。時間の制約から、このうち3件の報告の説明と意見交換が行われた。

2.1 高草木委員の報告に対する討議

高草木委員から、企業からの参加費の支出時期、教育の種類ごとの ECE として適切な内容、カッティングエッジ型の場合の講師および講師謝礼に関する考察結果の提示を受け、これについて意見交換を行った。意見交換の概要は次の通りである。

イ. 講師謝礼に関して

- * 講師謝礼は 5 万円程度だとやる気につながらず、100 万円程度であれば熱が入る。有名人には学会や役所でも高額の謝礼を払う。（川島、清宮）
- * 智価を認め、ある程度の講師謝礼を払わないと質のよい講義が期待できない。（川島）
- * 世間相場は無視できない。（高草木）

- * 講師謝礼はネームバリューへの対価のほかに、準備をしっかりやってくれることへの対価という意味が重要である。ECE は適切な講師にそれなりの謝礼を払うものにしなければならない。(川島)
- * 企業に講師派遣を頼むと、コンサルタントのような本業の費用相当の金額を請求されることはないが、一方、経理は小額の金銭の出入りを歓迎しない。(高草木)
- * 企業の実力者に講師を依頼したいとき、正規の窓口を通すと、講師の能力によらず企業の規定に則った費用を請求される傾向がある。(田口) 学会メンバーという筋で依頼をすれば受けてもらえる。(持田)
- * 企業の講師は会社の知財を使うことがあるので、講師謝礼は講師個人でなく、企業に入ることになる。(田口)
- * 大学での講師謝礼は 7500 円/時間であり、この程度の金額では謝礼よりも学会ためというのが講師を務める動機となる。(川島)

ロ. プログラム内容について

- * 学会で発表したことをもとに最先端の技術を話すことには意味がある。(持田)
- * 学術的に第一線であることに価値を認めてもらえるのではないか。工学会が関係する講座は工学的に意味があるものであるべきで、客寄せ的な付随企画は不要である。(川島)
- * 技術のことより、企業のノウハウに近いことが興味を引くが、実施は難しい。(高草木)
- * 論文の書き方などはよい課題である。(川島、清宮)
- * 論文を最低 1 篇書いてから論文の書き方を受講するとよい。(高草木)

ハ. 形態について

- * 1 対 1 の指導をすることは期待できない。こういうものは企業がコンサルタントを雇って対応するはずである。10 人くらいの小クラスで行うものになろう。(川島、清宮)
- * 博士論文の指導は 1 対 1 の教育に当たる。(田口)
- * 同じようなフェーズにある人を集めて講義をし、最後は適当な先生を紹介して 1 対 1 で仕上げをするというのはどうか。(持田)

2.2 持田委員の報告に対する討議

持田委員から、能動的な提案型が求められる企業内幹部候補養成プログラムに相当するものを ECE とし、この仕組みづくりについての提案が行なわれ、これについて意見交換を行った。

- * いろいろなところで始まっている MOT 教育と競合しないか。(中崎) ⇒MOT の専門家を育てるのではなく、MOT を活用する実務家を育てるものである。(持田)
- * 学協会は小回りが利くかどうかという点ではコンサルタントに劣る。(川島)
- * 桑原協議会長はこうした教育を日本工学会の役割と考えているのではないか。(持田)
- * 大学の先生や企業人を含むより広い範囲の講師チームを組むと特長が出る。(中崎)
- * よいコーディネータが必要である。(持田)
- * コーディネータには経営のセンスが必要である。MBA 的なところに踏み込んでゆく。(中崎)
- * 受講者が助言を受けられる体制が必要である。(持田)
- * 耐震工学のプログラムがよい例である。これを少人数で、企業、行政の人が入ってプログラムを作るとよい。半導体工場の耐震性などが注目を集める。地震に対するリスクマネジメントがよいテーマである。(田口)
- * 実務者の実際の意見が入ることが大切である。(川島)
- * 先生がはりつくことが必要がある。(高草木)
- * 産学連携の一つの形態である。(中崎)

2.3 田口委員の提案に対する検討

田口委員から、日本機械学会でこの 1 年間に実施した講演会・講習会の趣旨とプログラムが示され、ECE のモジュールとして役立てることの提案があった。謝礼は 1 時間 1 万円程度であり、ニーズを感じて参加してくれる人があった。学協会のコースが必ずしも受身のものとはいえない

という例である。これについて意見交換を行った。

イ. 講師謝礼について

- * 謝礼が少ないと教材の準備に手をかけないということはないか？ (川島) ⇒1 時間 1 万円が相場である。10 万円ももらうとかえってプレッシャーになる。(高草木)
- * 講師は学会への貢献に意義を感じて務めてくれる。(田口)
- * 受講者が価値を判断するから謝礼の額にプレッシャーを感じる必要はない。一度教材を作れば繰り返し使える。(清宮)
- * 同じことを繰り返すのは気が引ける。(高草木)
- * 謝礼の額とやる気は相関がある。(川島)
- * それは講師による。講師よりむしろコーディネータに高い報酬を払うべきである。なぜなら、コーディネータがコースの価値を決めるからである。コースの筋書き作りとグループ討議のリーダーがコーディネータの役割である。(田口)
- * 謝礼は大きなファクターである。(川島、高草木)
- * ビジネスモデルをしっかり検討して謝礼の額を決めるべきである。(田口)
- * 謝礼の額で講師の格を決めるのはおかしい。総収入の比率で決めるのがよい。(清宮)
- * 工学会の収入のためでなく、よい CPD を作るための方策と考えるべきである。(川島)

ロ. プログラム内容について

- * 紹介した講習会・講演会は技術者認定にからめている。学会にはよいプログラムがあるはずで、ECE と CPD を比較して、CPD が劣るとはいえない。(田口)
- * 一貫したコースを打ち出すとかコーディネーションをどうするかということが大切な点である。(川島)
- * 受講者側が受講料を払うかどうかも大切である。一人 1 万円とか 2 万円しか払ってくれないようだとコースは成り立たない。ブランド戦略をしっかりしないといけない。これはここで考えるべきである。(中崎)
- * 技術系ではブランドとなる講師を探すのは難しい。コースの作り方とコンテンツが大切で、これが受講者をひきつける鍵である。(田口)
- * 課題のタイムリーさも大切である。(川島)
- * 紹介されたようなことを事業計画で企画したことがあったが、うまくいかなかった。土木と建築の両方を対象にするとかえって足かせになる。分野をまたぐ新しい内容のコースを作るのがよい。また、深いことを聞きたいというニーズもある。(高草木)
- * トップマネジメント向けの教育では分野横断的なコースは役に立つ。(田口)

ハ. 形態について

- * 学会のチャンネルで人は集められる。ただ、学会で閉じず、トータルな企画ができる
とよい。(田口)
- * 少人数制を生かすとよい。(川島)
- * コーディネータが鍵である。(田口)

残りの報告書の討議は引き続き次回 10 月 12 日に行うことにした。

以上